

# 子ども時代の旅行経験と家族旅行に対する価値観について

## A Study of Travel Experience of Childhood, and the Sense of Values Over the Present Family Travel

森下 晶美\*

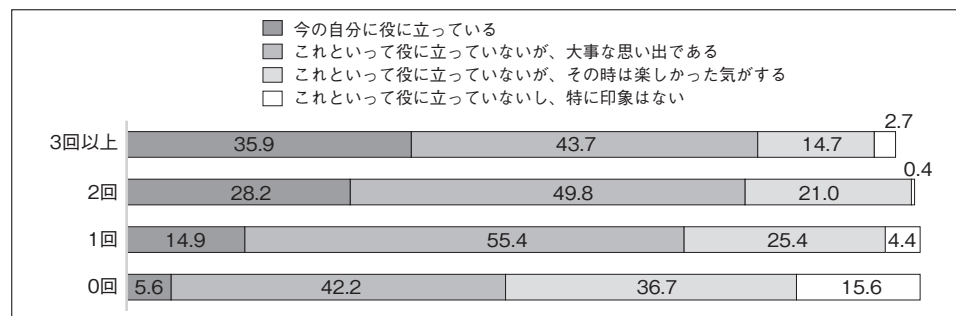
### 1. はじめに

子ども時代の家族旅行経験は、その後の性格や志向に影響することが指摘されている。2010年に行った家族旅行と志向・性格に関するインターネット・アンケート<sup>1)</sup>の結果では、子どもの頃に家族旅行経験の多い人は、成人後もコミュニケーション力や社会性、思いやりなどの点で本人の肯定度が高いという傾向が明らかになっている(森下2011)。また、観光庁が2009年度に行った「日本人の観光旅行状況に関する調査」でも、子ども時代の旅行回数が多い層で子どもの頃の旅行経験が「今の自分に役に立っている」と感じている人が多いと報告している(図1)。

それでは、子ども時代の家族旅行経験の多少は、現在の観光行動や旅行の価値観には影響を及ぼすのだろうか。本研究では、中でも、家族旅行に対する価値観や位置づけの違いを、子ども時代の家族旅行経験の多少による視点から明らかにすると共に、違いが生じるメカニズムについて探ってみたい。

研究にあたっては、現在子どもを持つ親に対して、自身の子ども時代の家族旅行経験と現在の家族旅行について尋ねたインターネット・アンケート調査に基づいた。

図1 子ども時代の旅行経験と評価(回数別)



資料：国土交通省観光庁「日本人の観光旅行状況に関する調査・分析等報告書」を元に作成

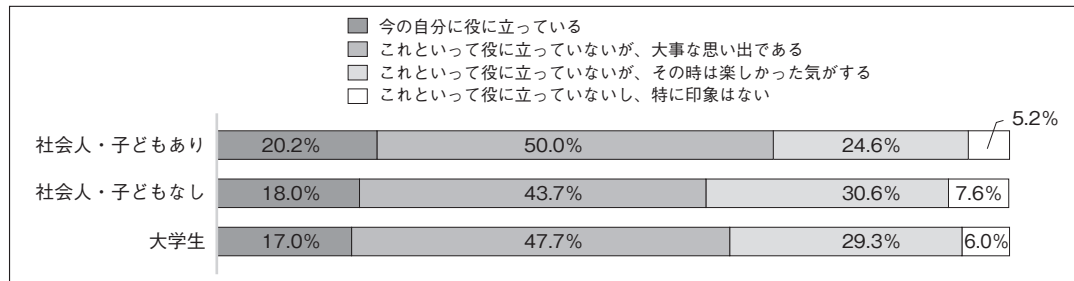
### 2. 子ども時代の旅行経験の影響

前出の観光庁の「日本人の観光旅行状況に関する調査・分析等報告書(H21年度)」によれば、

\* 東洋大学国際地域学部：Faculty of Regional Development Studies, Toyo University

子ども時代の旅行回数が多い層の方が「今の自分に役に立っている」と感じている割合が高いことが分かる。この傾向は、大学生や社会人の子どものいない層よりも子どもを持つ層で顕著に見られ、親となった層の方が、過去の家族旅行経験を評価している。つまり、親となってから、自身の子ども時代の旅行経験を照らし合わせて、旅行体験を再評価しているともいえる。

図2 子ども時代の旅行経験と評価（セグメント別）



資料：国土交通省観光庁「日本人の観光旅行状況に関する調査・分析等報告書」を元に作成

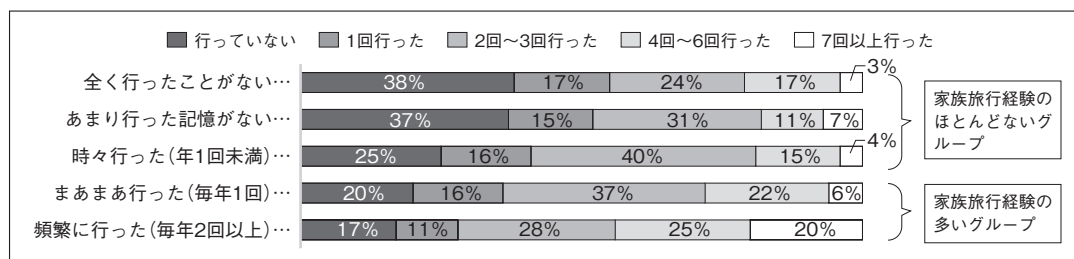
### 3. 子ども時代の旅行と現在の旅行

それでは、子ども時代の旅行経験は現在の家族旅行にも影響するのだろうか。その関連性を調べるため、子どもを持つ親世代に対し自身の子ども時代の旅行経験と現在の家族旅行実施状況についてアンケート調査を行い、子ども時代の旅行経験の多いグループと経験の少ないグループに分け、それぞれの特徴を分析した。

アンケートは、家族旅行における観光行動や目的、旅行に対する価値観を世代別に明らかにするため、全国の20～50歳代の子どもを持つ男女1,100名（男性579名、女性521名）に楽天リサーチを通じインターネット上で実施した。回答者の内訳は、20歳代から50歳代までの年代別に各275名。アンケートの実施期間は2013年2月3～4日。

分析にあたっては、子どもの頃に家族旅行に行った経験がどのくらいあるかとの問いに、「頻繁に行った」（回答者数208名）、「まあまあ（年1回程度）行った」（同339名）と答えた層を「子ども時代の家族旅行経験の多いグループ（以下、「多いグループ」）」（同547名）、「全く行ったことがない」（同63名）、「あまり行った記憶がない」（同258名）と答えた層を「子ども時代の家族旅行経験のほとんどないグループ（以下、「ほとんどないグループ」）」（同321名）に分け、それぞれの家族旅行に対する価値観と最近の家族旅行の傾向について両者の違いを分析した（図3）。

図3 最近3年間の子どもの同伴の家族旅行回数

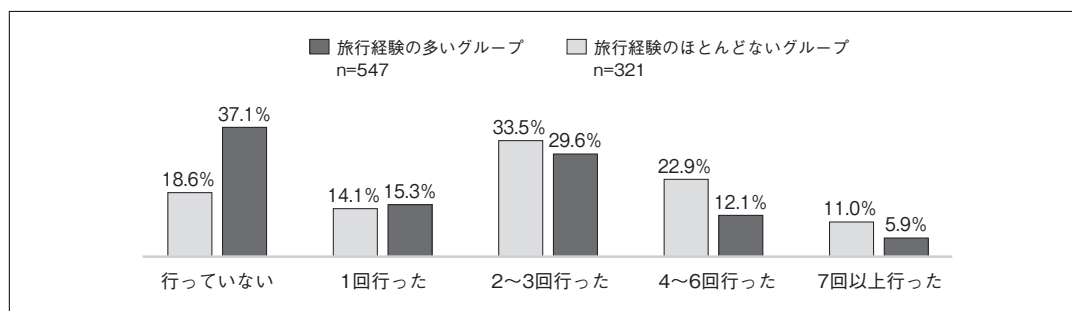


資料：国土交通省観光庁「日本人の観光旅行状況に関する調査・分析等報告書」を元に作成

最近3年間に子ども同伴で行った家族旅行回数を家族旅行経験数のグループ別に見ると、「多いグループ」では「2～3回行った」の回答が最も多く33.5%、次いで「4～6回行った」22.9%となっており、67%以上が複数回の家族旅行を行っている。一方、「ほとんどないグループ」では「行っていない」が37.1%に上り、最近3年間に複数回の家族旅行を行っているのは47.6%と半数以下である（図4）。

こうしたことから、親の子どもの頃の旅行経験の多少と現在の家族旅行実施回数には正の相関関係があることが分かる。

図4 最近3年間の子ども同伴の家族旅行回数（グループ別）



こうした両グループの差異を質問項目ごとにもう少し詳しく見てみたい。差異に着目するにあたっては、グループ間の差異を分かりやすくするため、「ほとんどないグループ」の回答率を1とした場合の「多いグループ」の比率（以下、「両者の比率」）を用い、また、中でも、回答選択肢のうち回答数が両グループのいずれかで10%を超えたものに着眼し考察することとした。

### (1) 旅行の魅力と考えていること

まず、調査では「あなたが考える“旅の魅力”とは何ですか？」という質問を行い、子ども時代の旅行経験の多少によって、考える旅の魅力に違いがあるのかを分析した。

旅行行動を引き起こす旅行動機については、既に心理学のアプローチからいくつかの分類がなされているが、佐々木（2000）は、観光動機を、①楽しいことをしたい（娯楽追求）、②知識を豊かにしたい（知識増進）、③緊張を解消したい（緊張解消）、④人間関係を深めたい（関係強化）、⑤自分自身を成長させたい（自己拡大）の5つに分類している。

この分類を用い、旅の魅力に関する質問に対する選択肢を分類すると、表1のようになり、両グループの回答者の割合を参照すると表2のようになる。

旅行の魅力と考えるものを回答の多い順に見ると、「美味しいもの・珍しいものを食べられる」、「精神的な休養・リフレッシュ」、「景色や建物などを見る、体験するなど物理的な感動がある」、「今までに行ったことのない場所に行く楽しみ」などが、それぞれ5割を超えており、子ども時代の家族旅行経験の多少による両グループに大きな差異はない。また、ほとんどの項目で「多いグループ」の回答率が高く、「多いグループ」の方が旅行の魅力をさまざまに評価しているのが分かるが、「普段乗らない乗り物に乗れる」、「景色や建物などを見る、体験するなど物理的な感動がある」、「今までに行ったことのない場所に行く楽しみ」の項目では「ほとんどないグループ」で回答がやや多い。

しかし、この回答割合を「ほとんどないグループ」の回答を1とした場合の「多いグループ」の

割合である両者の比率で見ると傾向が見えてくる。両者の比率では、関係強化と自己拡大に分類される項目で差異が大きく、「現地の方・出会った方との交流がある（関係強化）」では両者の比率は1.63となっている他、「同行者との仲を深められる（関係強化）」が1.43、「旅行自体、または何かにチャレンジしたことの達成感がある（自己拡大）」1.42となっている。また、回答数は10%を超えなかったものの「人に自慢できる（Facebookに公開するなど）（自己拡大）」では両者の比率は2.54となっており、観光動機分類の関係強化と自己拡大に属する旅行の魅力に関しては、「ほとんどないグループ」ではあまり魅力と捉えていないことが分かる。さらに、「旅行に魅力があるとは思わない」と考えるのは、「ほとんどないグループ」で圧倒的に多く、「多いグループ」の回答が0.7%であるのに対し「ほとんどないグループ」では12.5%となっており、17倍もの差が生じている。

表1 「あなたが考える“旅の魅力”とは何ですか」の回答選択肢の分類

分類	回答の選択肢
娯楽追求	美味しいもの・珍しいものを食べられる
	普段乗らない乗り物に乗れる
	現地ならではの土産を買える
	有名な（話題の）場所（宿泊施設を含む）に行くことの楽しみ
知識増進	景色や建物などを見る、体験するなど物理的な感動がある
	今までに行ったことのない場所に行く楽しみ
	人が知らない場所に行く、体験することの楽しみ
	知らないことを見たり聞いたりできる（知識が深まる）
緊張解消	いいサービスなどを受ける人的な感動がある
	精神的な休養・リフレッシュ
	身体的な休養
関係強化	現地の方・出会った方との交流がある
	同行者との仲を深められる
自己拡大	旅行自体、または何かにチャレンジしたことの達成感がある
	人に自慢できる（Facebookに公開するなど）
	旅行には魅力があると思わない

表2 考える“旅の魅力”（複数回答2つまで）

		経験の多いグループ n=547	ほとんどないグループ n=321	両者の比率
娯楽追求	美味しいもの・珍しいものを食べられる	66.4%	59.8%	1.11
	普段乗らない乗り物に乗れる	14.6%	15.6%	0.94
	現地ならではの土産を買える	35.6%	30.8%	1.16
	有名な（話題の）場所（宿泊施設を含む）に行くことの楽しみ	25.6%	22.4%	1.14
知識増進	景色や建物などを見る、体験するなど物理的な感動がある	57.4%	58.3%	0.99
	今までに行ったことのない場所に行く楽しみ	50.1%	50.2%	1.00
	人が知らない場所に行く、体験することの楽しみ	18.5%	14.0%	1.32
	知らないことを見たり聞いたりできる（知識が深まる）	27.2%	25.2%	1.08
緊張解消	いいサービスなどを受ける人的な感動がある	12.1%	8.1%	1.49
	精神的な休養・リフレッシュ	58.0%	55.8%	1.04
	身体的な休養	19.4%	16.5%	1.17
関係強化	現地の方・出会った方との交流がある	13.2%	8.1%	1.63
	同行者との仲を深められる	27.2%	19.0%	1.43
自己拡大	旅行自体、または何かにチャレンジしたことの達成感がある	14.6%	10.3%	1.42
	人に自慢できる（Facebookに公開するなど）	2.4%	0.9%	2.54
	旅行には魅力があると思わない	0.7%	12.5%	0.06

## (2) 家族旅行の旅行目的

現在の家族旅行目的で、最も多かったのが「家族一緒の時間・体験を作りたい」で「多いグループ」で49.0%、「ほとんどないグループ」でも38.9%となっている。両グループの間に値に差異が出たのが「子どもに色々な体験をさせたい」の項目で、「多いグループ」では40.8%が選んでいるのに対し、「ほとんどないグループ」では25.2%の回答となっており、両者の比率は1.62となっている。これは、子どもの頃の旅行経験が多い方が、自身の体験をもとに子どもが旅行で体験できることを具体的に想像できるからではないかと考えることができる。また、「多いグループ」では「そもそも旅行が好きだから」の回答も17.9%に上り、「ほとんどないグループ」の9.3%と差異が生じた。

また、10%を超えなかったが、「ほとんどないグループ」でむしろ多くなった回答は、「親に行きたい場所(したいこと)がある(6.9%)」、「子どもの休息・リフレッシュ(5.0%)」となっている(表3)。

表3 家族旅行の目的

	経験の多いグループ n=547	ほとんどないグループ n=321	両者の比率
子供に色々な体験	40.8%	25.2%	1.62
家族一緒の時間	49.0%	38.9%	1.26
子供の行きたい場所	9.3%	7.2%	1.30
親の行きたい場所	5.9%	6.9%	0.85
子供の休息	4.6%	5.0%	0.92
親の休息	11.9%	9.0%	1.32
恒例でいつも行く	3.3%	2.2%	1.51
旅行が好き	17.9%	9.3%	1.92
皆行くから	0.0%	0.3%	0.00
なんとなく	1.1%	3.4%	0.32

## (3) 家族旅行の検討で重視するもの

家族旅行のプランを考えると重視するもの問いでは、回答の多い順に、「日程や予算」が「多いグループ」で65.6%、「ほとんどないグループ」で51.1%、次いで「子どもが行きたい場所・したいこと」では「多いグループ」が40.6%、「ほとんどないグループ」27.1%となっており、順位についての両グループによる大きな差異はなかったが、両者の比率で見ると、「子どもが行きたい場所・したいこと」で1.50の差が生じており、「ほとんどないグループ」と比較して、「多いグループ」で子どもを軸として家族旅行を検討している人が多いことが分かる。

表4 家族旅行のプランを考えると重視するもの(複数回答2つまで)

	旅行経験の多いグループ n=547	旅行経験のほとんどないグループ n=321	両者の比率
日程や予算	65.6%	51.1%	1.28
子どもが行きたい場所・したいこと	40.6%	27.1%	1.50
親が行きたい場所・したいこと	16.5%	15.0%	1.10
その他同行者(祖父母など)が行きたい場所・したいこと	2.7%	1.6%	1.76
観光地などの話題性	10.1%	7.8%	1.29
子どもに役立つか(夏休みの課題など)	2.9%	0.9%	3.13
プランを考えたことはない	1.3%	2.2%	4.69

#### (4) 家族旅行での観光行動

最近の家族旅行において、旅先で行った観光行動について複数回答（3つまで）で尋ねたところ、最も多い順に「おいしいものを食べる」、「テーマパークや乗り物などを楽しむ」、「温泉を楽しむ」となっており、順位に関して両グループに大きな違いはなかったが、旅先での旅行行動のほとんどの項目で「多いグループ」の回答の割合が高く、「多いグループ」の方が旅行先で活発に活動していることが分かる。両者の比率で見ると、特に「テーマパークや乗り物などを楽しむ（1.65）」、「おいしいものを食べる（1.51）」、「現地でのんびりする（1.50）」などで差が生じている。

一方、「旅館やホテルなど宿泊施設を楽しむ」、「何もしない」については、むしろ「ほとんどないグループ」で回答が多くなっており、「ほとんどないグループ」では比較的少なく受動的な観光行動である。

表5 最近の家族旅行での観光行動（複数回答3つまで）

	旅行経験の多い グループ n=547	旅行経験のほ んどないグループ n=321	両者の比率
おいしいもの	37.1%	24.6%	1.51
街や都市	7.9%	8.4%	0.93
海水浴	11.3%	6.9%	1.11
テーマパーク、乗り物	31.6%	22.7%	1.65
名所	27.6%	19.9%	1.39
祭り	4.4%	3.7%	1.38
スポーツ	3.1%	2.8%	1.17
現地ならではの体験	6.0%	4.0%	1.49
自然	15.9%	11.2%	1.42
温泉	31.6%	23.4%	1.35
のんびり	9.3%	6.2%	1.50
宿泊施設を楽しむ	8.2%	9.3%	0.88
何もしない	1.1%	1.2%	0.88

#### (5) 家族旅行の妨げと今後の旅行意欲

家族旅行を行う上で最も妨げとなることを複数回答（2つまで）で尋ねたところ、回答率の高かった項目に両グループに大きな違いはなく、最も多かったのが「費用」でどちらも60%を超え、次いで多かったのが「親の時間」、「子どもの時間」となった（表6）。

しかし、他の質問と異なり、妨げの質問においては、「ほとんどないグループ」の方が回答割合の高いものが多く、回答数は10%に満たないものの、特に「プランや手配が面倒」については「ほとんどないグループ」が9.0%であるのに対し「多いグループ」で5.5%とやや差異が生じた（両者の比率0.61）。また、「特に妨げはない」としたのもむしろ「ほとんどないグループ」で多かった（表6）。

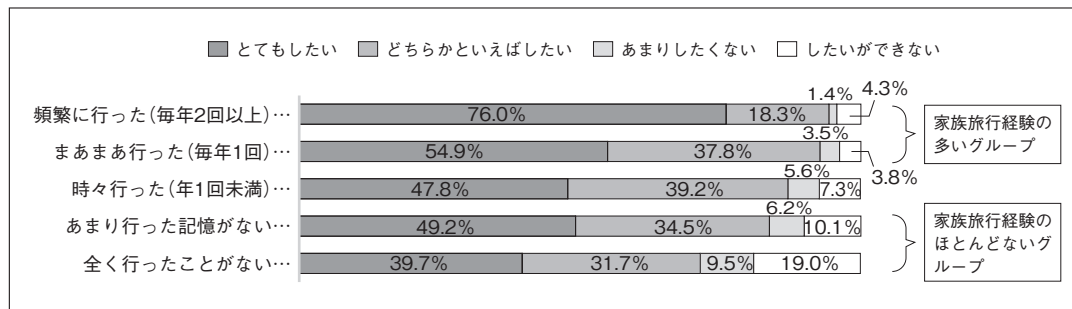
また、今後、子どもと積極的に旅行をしたいかの質問では、詳しい傾向を見るため、子どもの頃の家族旅行頻度による5つの層に分類を戻し、今後の家族旅行意欲を分析したところ、子どもの頃に「頻繁に家族旅行に行った（毎年2回以上）」層で最も意欲が高く76.0%が「とてもしたい」と答えたのに対し、頻度が少なくなるほど意欲も低くなり、「家族旅行に全く行ったことがない」層では39.7%に止まった。また、「あまりしたくない」と答えたのも「全く行ったことがない」層でもっとも高い値となり、子どもの頃の家族旅行経験と今後の家族旅行意欲も正の相関関係にあること

が分かる（図5）。

表6 家族旅行の妨げとなること（複数回答2つまで）

	旅行経験の多いグループ n=547	旅行経験のほとんどないグループ n=321	両者の比率
費用	60.5%	62.0%	0.98
子どもの時間	32.5%	31.2%	1.04
親の時間	37.8%	32.4%	1.17
子どもが行きたがらない	6.0%	4.0%	1.49
旅行よりやらせたいことがある	0.9%	1.6%	0.59
プランや手配が面倒	5.5%	9.0%	0.61
家を留守にできない	3.3%	4.0%	0.81
旅行が好きではない	0.5%	1.9%	0.29
特に妨げはない	3.8%	5.0%	0.77

図5 今後の家族旅行意欲



#### 4. グループ間の差異と特徴

以上のように、家族旅行の妨げとなることの質問を除き、いずれの質問においても「多いグループ」の方が回答の割合が高く、このことから、子ども時代の家族旅行経験の多い方が旅行の魅力に対する評価が高く、また、実際の観光行動においても活発に活動していることが分かるが、両グループ間の差異をもう一度まとめると以下のようなになる。

##### ① 旅行の魅力と捉えていること

両グループ間で比較的差異の大きく「多いグループ」に回答が多かった項目として、「現地の方・出会った方との交流がある」（両者の比率1.63）、「いいサービスなどを受ける人的な感動がある」（同1.49）、「同行者との仲を深められる」（同1.43）、「旅行自体、または何かにチャレンジしたことの達成感がある」（同1.42）、また、回答数は少ないものの「人に自慢できる（Facebookに公開するなど）」（同2.54）、などがあげられるが、いずれも旅行動機のカテゴリにおける人間関係を深めたい「関係強化」と自分自身を成長させたい「自己拡大」に分類される事項で、「多いグループ」においては旅行を人間関係強化や自己成長の場と考えていることが分かる。

一方、「ほとんどないグループ」でむしろ回答が多かったのは、「普段乗らない乗り物に乗れる」（同0.94）、「景色や建物などを見る、体験するなど物理的な感動（同0.99）」など、楽しいことをする「娯楽追求」や「知識増進」に関する物理的なものであった。また、「旅行に魅力があるとは思わない」

(同0.06)と答えたのも圧倒的にこのグループであった。

## ② 家族旅行の目的

家族旅行の目的として最も多かった回答は、回答数では両グループとも「家族一緒の時間・体験をつくりたい」、「子どもに色々な体験をさせたい」で、「多いグループ」ではいずれも40%を超えた。一方、両グループの差異の点から見ると、「子どもに色々な体験をさせたい」（両者の比率1.62）、「そもそも旅行が好き」（同1.92）などとなっており、家族旅行は特に「多いグループ」において、子どもや家族の体験・時間づくり、として位置づけられていることが分かる。

## ③ 家族旅行で重視すること

家族旅行で重視することとして最も多かった回答は、回答数では両グループとも「日程や予算」、「子どもが行きたい場所・したいこと」であったが、両グループの差異の点から見ると、「子どもが行きたい場所・したいこと（両者の比率1.50）」で差異が大きく、特に「多いグループ」において、子どもの意向を重視していることが分かる。

## ④ 家族旅行での実際の観光行動

観光行動については、回答数の順位に関して両グループに大きな違いはなく、最も多い順に「おいしいものを食べる」、「テーマパークや乗り物などを楽しむ」、「温泉を楽しむ」となったが、旅先での旅行行動のほとんどの項目で「家族旅行経験の多いグループ」の方が回答の割合が高く、「多いグループ」の方が全体として活発に観光行動をしているが「ほとんどないグループ」では比較的受動的であることが分かる。

また、両グループの差異の点から見ると、「テーマパークや乗り物～（両者の比率1.65）」、「おいしいもの～同1.51）」、「自然を楽しむ（同1.42）」となっている。

## ⑤ 家族旅行の妨げと今後の意欲

家族旅行を実施する上での妨げについては、両グループに極端な差異はなく、費用や時間が問題であることが分かるが、回答数は10%に満たないものの、「プランや手配が面倒」と答えたのが「ほとんどないグループ」で9.0%と他の回答項目と比較してやや高い傾向にあり、両者の比率は0.61となった。「特に妨げはない」の回答は「ほとんどないグループ」で5.0%ほど見られ、「多いグループ」よりむしろ回答が多かった。

また、今後の家族旅行意欲については、子どもの頃の家族経験が多いほど旅行意欲も高く、「全くない」層で低いことが分かる。

こうしたことから、「ほとんどないグループ」においては、「多いグループ」と比較してそもそも家族旅行実施意欲が低く、このため、家族旅行を実施する上での妨げが特にあるわけではないが、プランや手配も面倒と考えている可能性が指摘できる。

## 5. 子ども時代の家族経験と家族旅行への影響

家族旅行は、全体として、子どもや家族の体験・時間づくり、として位置づけられており、子どもが行きたい・したいという子どもの意向も重視していることが分かるが、子ども時代の家族旅行経験の多少により2つの影響を指摘することができる。



### (1) 「多いグループ」で活発な家族旅行

「多いグループ」では、特に子どもや家族の体験・時間づくりと捉え、子どもの意向重視の傾向も強く、このグループでは、実際の家族旅行における観光行動もさまざま活発に行っている。また、旅行の魅力に対する評価も「多いグループ」で高く、中でも、「現地の方・出会った方との交流がある」、「いいサービスなどを受ける人的な感動がある」、「同行者との仲を深められる」といった人間関係を深める「関係強化」と自分自身を成長させる「自己拡大」に関する回答では、「家族旅行経験のほとんどないグループ」との差異が生じた。

一方、「ほとんどないグループ」では、家族旅行の妨げに関する質問を除き、いずれの質問項目においても「多いグループ」と比較して回答の割合が少なく、全体として「多いグループ」よりも不活発もしくは受動的な家族旅行の様子が分かる。特に、旅行目的の「子どもに体験させたい」などの項目でその差(1.62)が生じ、今後の家族旅行意欲についても、子どもの頃の家族経験が少ないほど低い傾向が見られた。

また、「家族旅行で重視するもの」の「費用」については「多いグループ」と比較し「ほとんどないグループ」でむしろ低くなっているが、反対に「旅行の妨げとなるもの」では「ほとんどないグループ」で「費用」が最も高い値となる。こうした矛盾から、このグループにおいては、家族旅行が費用を伴った現実性を持った検討の対象となっていない可能性が指摘できる。

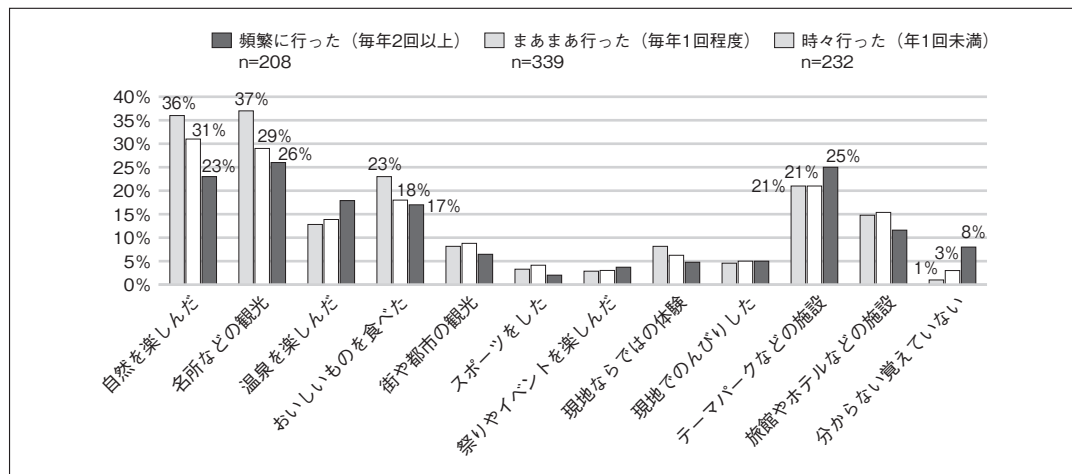
### (2) 旅行体験と“ケース”の構築の重要性

佐々木(2007)によれば、旅行の際に考えねばならないことは多く、「どこへ」、「どんな行き方で」、「いつ」、「どのくらいの期間」、「どの程度の費用で」、「誰と」、など実に多面的で、複雑であり、種々の側面で選択を繰り返すことが必要になるという。こうした複雑な選択の繰り返しが旅行に対して「プランや手配が面倒」という意識を生む要因となっていると考えられるが、佐々木(2007)は、こうした種々の属性(目的地、同行者、期間、費用など)は、旅行経験によってある程度セット化され、「前回の北海道旅行」というような「経験事例(ケース)」を成り立たせ、経験を積み重ねることによって、ひとつひとつの属性を選択するのではなく、ケースを基本パターンとしてそれを部分的に変更・修正して計画することが多くなると論じている。

こうした「経験事例(ケース)」の少ない層である「ほとんどないグループ」で特に「プランや手配が面倒」という回答が比較的多くなったのは、ケース化するための旅行経験が少なく、種々の属性(目的地、同行者、期間、費用など)について各々の検討が必要になってくるため、「面倒」という意識につながっているとも考えられる。

今回のアンケート調査では、回答者が子ども時代の旅行で印象に残ったことについても尋ねたが、それを旅行経験回数別にまとめると図6のようになる。「テーマパーク」や「温泉」のように施設などが具体的な項目は、経験の少ない層で印象に残っている割合が高いが、「自然」、「名所」といった抽象的、また、予備知識の必要なものは旅行経験が多くなるにつれて印象に残っており、具体的な旅行プラン検討においてこの項目では特に「経験事例(ケース)」が必要となる可能性を指摘することができる。

図6 子ども時代の旅行で印象に残ったこと



旅行を楽しむためには、旅行経験の積み重ねも必要であり、この経験が少ないと旅行を検討する際、種々の属性（目的地、同行者、期間、費用など）一つ一つの検討をせねばならず、既に旅行検討時に「面倒」という意識が生まれる。

また、実際の観光行動においても、自然や名所を楽しむには旅行経験の積み重ねが有効で、経験を重ねるにつれ、自然などの繊細な楽しみ方が分かってくると考えられる。名所などを楽しむにも、予備知識を持つ方がより楽しめることは今更説明を要しないだろう。これは、自然や名所などは、テーマパークなどと比較し強烈な印象には乏しいため、楽しむためには細部に対する興味や検討が必要で、これは旅行経験の積み重ねによって徐々に得られていくものであることを物語っている。

## 6. おわりに

以上のように子ども時代の家族旅行経験の多少は、親となった現在の家族旅行にも影響を及ぼしているといえる。特に、現地での観光行動の活発性や旅行の魅力の感受性、家族旅行意欲などで傾向の差が見られ、子ども時代の家族旅行経験の多い層で高く、反対にほとんどない層で低いことが分かった。

また、こうした差異が生じる要因として、旅行体験の“ケース”の構築の多少が関係している可能性を指摘した。つまり、旅行の魅力を感じる感受性や現地で旅行を楽しむための観光行動は、これまでの旅行体験によって“ケース”が構築されるにつれて細部に対する興味のベースが築かれ、また、“ケース”によってプランの検討が容易になることでより活発化していくと考えることができる。

しかし、旅行経験と“ケース”の構築については、現段階では旅行頻度との相関性や経験の事象との関連性など、未解明な点も多く、今後の研究課題としていきたい。

**[注]**

- 1) 全国の18歳～25歳(平均22.8歳)の男女を対象にインターネット・アンケート形式(楽天リサーチ)で行った。回答数は1,700名(男性724名:女性976名)、アンケートの実施期間は2010年2月9日～2月11日。

**<参考文献>**

- 国土交通省観光庁「日本人の観光旅行状況に関する調査・分析等報告書」、平成21(2009)年3月
- 森下晶美「成長期の家族旅行経験と個人の志向・性格との関連性について」、観光学研究第10号、東洋大学国際地域学部、2011年3月、pp95-108
- 佐々木土師二「観光旅行の心理学」、北大路書房、2007年3月、pp104-105,108-109
- 林 幸史、藤原武弘「観光地での経験評価が旅行満足に与える影響 - 観光動機と旅行経験の観点から -」、関西学院大学社会学部紀要、2012年3月
- 佐々木土師二「旅行者行動の心理学」、関西大学出版部、2000年5月

## 資料1 家族旅行に関するアンケート

性別 男性 女性年齢 20歳～29歳 30～39歳 40～49歳 50～59歳

- ① 子どもの年齢層（複数回答可）をお聞かせ下さい。  
幼児（未就学） 小学生（1～3年生） 小学生（4～6年生） 中学生 高校生  
大学生・専門学校生など 社会人 その他
- ② 過去3年間に宿泊を伴う子供同伴の家族旅行には何回行きましたか（帰省は除く）？  
0回 1回 2～3回 4～6回 7回以上
- ③ ②について、最も多かった同行者の構成をお聞かせ下さい。  
両親と子ども 父親と子ども 母親と子ども 祖父母を含めた三世代  
その他の親族や友人も含めて
- ④ ②について、海外旅行には行きましたか？  
1回行った 2回行った 3回以上行った 行っていない
- ⑤ 最近の家族旅行では、主にどんなことをしましたか？（複数回答3つまで）  
自然を楽しむ 名所などの観光 温泉を楽しむ おいしいものを食べる  
街や都市を楽しむ スポーツを楽しむ 海水浴などリゾートを楽しむ  
祭りやイベントを楽しむ 現地ならではの体験を楽しむ（つり、キャンプ、農作業など）  
現地でのんびりする テーマパークや乗り物などの施設を楽しむ  
旅館やホテルなどを楽しむ 特に何もしていない その他
- ⑥ 家族旅行に行くのは、主に何が目的ですか？（複数回答2つまで）  
子どもに色々な体験をさせたい 家族一緒の時間・体験を作りたい  
子どもに行きたい場所（したいこと）がある 親に行きたい場所（したいこと）がある  
子どもの休息・リフレッシュ 親の休息・リフレッシュ  
恒例でいつも行くから 旅行が好きだから 周りのみんなが行くから  
なんとなく その他
- ⑦ 家族旅行のプランを考える際、何を重視して考えますか？（複数回答2つまで）  
日程や予算  
子どもが行きたい場所・したいこと  
親が行きたい場所・したいこと  
その他同行者（祖父母など）が行きたい場所・したいこと  
観光地などの話題性  
子どもに役立つか（夏休みの課題など）
- ⑧ 今後、積極的に子どもと旅行をしたいと思えますか？  
とてもしたい どちらかと言えばしたい あまりしたくない したいと思うができない
- ⑨ 子どもとの家族旅行に行く際に、最も妨げになることはどんなことですか？（複数回答2つまで）  
費用 子どもの時間 親の時間 子どもが行きたがらない  
旅行より他にやりたい（やらせたい）ことがある プラン立てや手配が面倒

- 家を留守にできない（介護など）    そもそも旅行があまり好きではない  
特に妨げになることはない    その他
- ⑩ あなたが子どもの頃に家族旅行の経験はどのくらいありますか？  
頻繁に行った（毎年2回以上）    まあまあ行った（毎年1回程度）  
時々行った（年1回未満）    あまり行った記憶がない    全く行ったことがない
- ⑪ あなたが子どもの頃に行った家族旅行で、最も思い出、印象に残っているのはどんなことですか？（複数回答2つまで）  
自然を楽しんだこと    名所などの観光をしたこと    温泉を楽しんだこと  
おいしいものを食べたこと    街や都市を観光したこと    スポーツをしたこと  
祭りやイベントを楽しんだこと  
現地ならではの体験（つり、キャンプ、農作業など）をしたこと  
現地でのんびりしたこと    テーマパークなどの施設    旅館やホテルなどの施設  
一緒に行った同行者のこと    旅行中に会った人のこと（同行者以外）  
旅行中のアクシデントやトラブルのこと    その他
- ⑫ あなたが独身の頃（学生時代も含め）、宿泊を伴う旅行をどのくらいしましたか？  
頻繁に行った（毎年2回以上）    まあまあ行った（毎年1回程度）  
時々行った（年1回未満）    あまり行った記憶がない    全く行ったことがない
- ⑬ あなたが考える「旅行の魅力」とは何ですか？（複数回答制限なし）  
美味しいもの・珍しいものを食べられる    普段乗らない乗り物に乗れる  
景色や建物などを見る、体験するなど物理的な感動がある  
いいサービスなどを受ける人的な感動がある    現地ならではのお土産を買える  
現地の方・出会った方との交流がある    同行者との仲を深められる  
有名な（話題の）場所（宿泊施設を含む）に行くことの楽しみ  
今までに行ったことのない場所に行く楽しみ  
人が知らない場所に行く、体験することの楽しみ  
精神的な休養・リフレッシュ    身体的な休養  
知らないことを見たり聞いたりできる（知識が深まる）  
旅行自体、または何かにチャレンジしたことの達成感がある  
人に自慢できる（Facebookに公開するなど）    その他  
旅行には魅力があると思わない
- ⑭ 普段、子どもと過ごす時間は生活時間を含めて1日に平均でどのくらいありますか？  
1時間未満    1時間～2時間未満    2時間～3時間未満    3時間～5時間未満  
5時間以上
- ⑮ 旅行を子どもの教育や人間性の形成に役立てようという「旅育」という考え方があります。あなたは、旅行が子どもの成長や教育にプラスの影響があると思いますか？  
とてもあると思う    ある程度はあると思う    あまりないと思う  
全くないと思う

## 資料2 被験者の居住地

	n	%
全体	1100	100.0
北海道	41	3.7
青森県	16	1.5
岩手県	8	0.7
宮城県	25	2.3
秋田県	19	1.7
山形県	9	0.8
福島県	12	1.1
茨城県	17	1.5
栃木県	10	0.9
群馬県	9	0.8
埼玉県	64	5.8
千葉県	50	4.5
東京都	132	12.0
神奈川県	95	8.6
新潟県	17	1.5
富山県	10	0.9
石川県	8	0.7
福井県	6	0.5
山梨県	4	0.4
長野県	21	1.9
岐阜県	19	1.7
静岡県	22	2.0
愛知県	100	9.1
三重県	10	0.9
滋賀県	15	1.4
京都府	24	2.2
大阪府	86	7.8
兵庫県	46	4.2
奈良県	17	1.5
和歌山県	8	0.7
鳥取県	7	0.6
島根県	5	0.5
岡山県	17	1.5
広島県	20	1.8
山口県	14	1.3
徳島県	6	0.5
香川県	10	0.9
愛媛県	13	1.2
高知県	4	0.4
福岡県	43	3.9
佐賀県	3	0.3
長崎県	10	0.9
熊本県	6	0.5
大分県	2	0.2
宮崎県	5	0.5
鹿児島県	8	0.7
沖縄県	7	0.6